

平成26年度 第9回 応用動物科学セミナー

精巣組織の異種移植による ブタ遺伝資源の 保全・利用法の開発

菊地 和弘 博士

農業生物資源研究所 動物科学研究領域
動物発生分化研究ユニット 上級研究員

● 7月18日(金) 15:00 ~ 16:00 弥生講堂一条ホール

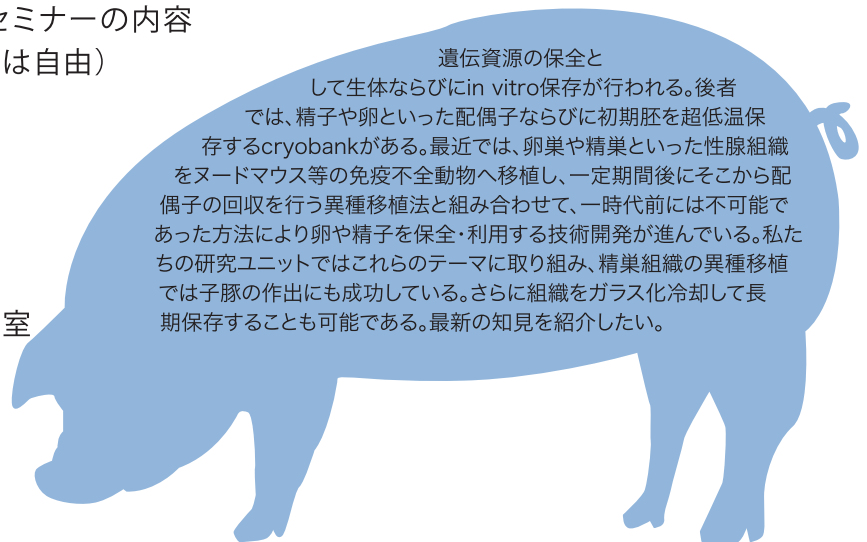
● 本講演は獣医学専攻大学院講義「獣医学特論」の一部として開講されますが、応用動物科学専攻大学院講義「動物科学のフロンティア(修士課程)/動物科学フロンティア(博士課程)」の講義1回分としても認定されます。履修者は、セミナーの内容についてレポートを作成の上(様式は自由)セミナー終了後2週間以内に下記担当教員まで提出すること。

● 問い合わせ / レポート提出先:

応用動物科学専攻 応用遺伝学研究室
杉浦 幸二 准教授

☎ 03-5841-5195

✉ aks@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp



遺伝資源の保全として生体ならびにin vitro保存が行われる。後者では、精子や卵といった配偶子ならびに初期胚を超低温保存するcryobankがある。最近では、卵巣や精巣といった性腺組織をヌードマウス等の免疫不全動物へ移植し、一定期間後にそこから配偶子の回収を行う異種移植法と組み合わせて、一時代前には不可能であった方法により卵や精子を保全・利用する技術開発が進んでいる。私たちの研究ユニットではこれらのテーマに取り組み、精巣組織の異種移植では子豚の作出にも成功している。さらに組織をガラス化冷却して長期保存することも可能である。最新の知見を紹介したい。